

## 感謝をこめて

5年 M・Mさん

「負けるなよ、よみがえれ」第七十八号の新聞のタイトルだ。力強い大きな文字で、みんなを奮い立たせるようなそんな気迫を感じた。負けてたまるか、大沢の人間は強いんだぞと訴えかけてくる。新聞には、「ありがとっ」と感謝の言葉があふれている。人間の底知れぬ強さと優しさ、清らかさを感じ、まさに希望そのものだと思った。

ここ数年、様々な自然災害が世界各地で大きな被害をもたらしている。私は、以前から、自然災害に関心があり、図書館で調べたり、災害についてのパンフレットを集めて勉強したことをまとめた「災害ノート」を作っている。その過程で、災害医療や、自然災害に強い街作りに興味を持ち、将来は医師と建築士になりたい。東日本大震災のこともたくさん調べた。甚大な被害があり、犠牲になった多くの方がいたことは知っていた。しかし、被災所の生活が、死と隣り合わせの日々だったこと、大人も子どもも生きるための活動に必死だったことなど、その体験記は、私の想像をはるかに超えるものだった。

毎日、ニュースで戦争や災害で故郷が破壊され、がれきの山、けがした人、泣いている人が映し出される。無関心でいてはいけない。海よ光れを読んで、私にも出来ることがあるはずだ、私には何が出来るのかと考えた。

最初は、お年玉を募金しようと思った。でも、お年玉は、私が働いて得たものではない。そこがとても引つかなかった。人のために、何かやったら自分がいい気分になりたかった訳ではない。母に相談して、夏休みの創作コンクールで受賞した絵本を製本して売ってみることにした。自分で苦労することに意義がある。少ない金額だったけれど、戦争とトルコ地震で被災した方に、「負けないでください、遠い所からですが、応援しています。」と真心を込めて、売上金を募金した。

海よ光れの号外で、今ある平穏な日常を当たり前に思わず、感謝の気持ちを持たずに挑戦して楽しい人生を送ってくださいとメッセージが書いてあった。それを心に刻み、どんなことがあっても、あきらめずに前を向いて挑戦する、小さなことでもいいから、人の役に立つことを考えて行動する、感謝と真心を忘れない。大沢の人たちのように、私も強くあると思う。大切なことを教えていただいたことに感謝する。